

# 全体構想

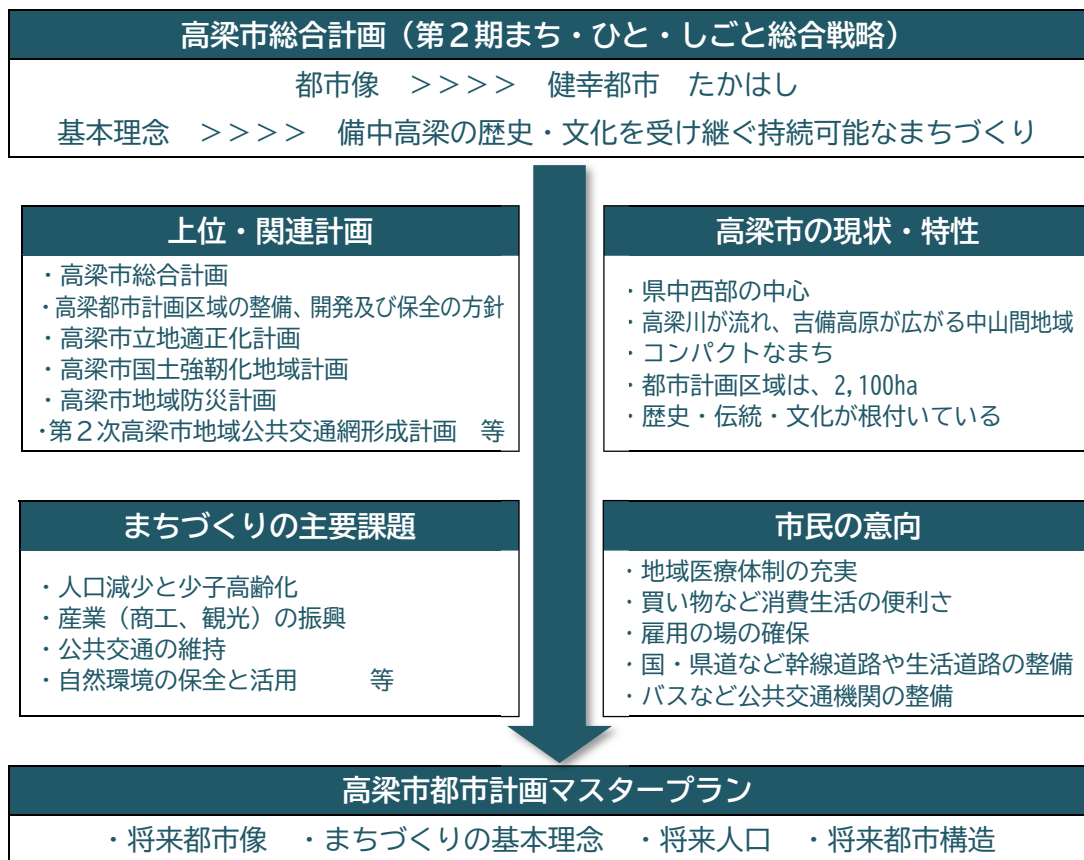




# 第3章 将来都市像

## 1 将来都市像の考え方

本マスタープランでは、高梁市総合計画に掲げる都市像を都市計画の観点から実現していくことを目指し、上位・関連計画や、本市の現状・特性・まちづくりの主要課題や市民の意向を踏まえ、「将来都市像」、「まちづくりの基本理念」、「将来人口」、「将来都市構造」を定めます。



## 2 まちづくりの基本理念と目標

### 将来都市像

#### 『健幸都市 たかはし』

本市では、人口減少や超高齢社会に対応するため、「高梁市総合計画 2021-2030」が描く将来都市像『健幸都市 たかはし』のもと、都市を自然と人びとが暮らす「空間」として捉え、以下のとおりまちづくりの基本理念として目標を定め、課題の解決に取り組みます。

### まちづくりの基本理念

#### 備中高梁の歴史・文化を受け継ぐ持続可能なまちづくり

市の中核を担う高梁・落合・成羽地区をはじめ、地域の拠点を中心として、それぞれのエリアで培われてきた歴史・文化・伝統を継承しつつ、市街地の集約化や地域特性を活かしたまちづくりを推進するとともに、各拠点の効率的・効果的なネットワークを強化するため、次の目標を設定し、分野別及び地域別に方針を定めます。

### まちづくりの目標

集約・連携	<p>1. 人口減少・超高齢社会に対応した持続可能なまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 都市機能の集約・適正化</li> <li>● 利便性の高い拠点への居住の誘導</li> <li>● 地域間を繋ぐ利便性の高い公共交通ネットワークの構築及び近隣都市を結ぶ幹線道路の整備や鉄道の利便性向上</li> <li>● 隣接都市との連携を図り、相互補完体制の構築</li> </ul>
拠点維持	<p>2. 中心市街地の活性化と地域連携による利便性の高いまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 都市機能の維持・充実とにぎわいの創出</li> <li>● 空き家等の利活用による中心市街地の空洞化の改善</li> <li>● 地域間の相互補完による市全体としての都市機能の確保</li> </ul>
環境・防災	<p>3. 自然と調和した安全・安心で快適に暮らせるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 水と緑に恵まれた自然環境との共生と調和</li> <li>● ユニバーサルデザインに配慮した公共施設の整備</li> <li>● 防災・減災対策による災害に強いまちづくりの推進</li> </ul>

## 4. 活力ある産業の発展を支えるまちづくり

- 工業団地の造成や効果的な企業誘致による雇用の確保
- ぶどう、トマト等の主要農産物の供給力強化と地産地消の推進
- 担い手・後継者の育成等による農林業・商工業の振興

## 5. 地域の個性を活かした魅力あるまちづくり

- 特色ある地域資源を活かした魅力ある景観まちづくりの推進
- 地域特有の豊かな自然や歴史的建造物等の保存・活用
- 観光資源のネットワーク化による交流人口の増加・回遊性の向上

## 2-1 将来の目標人口

本市の人口は、昭和55年以降一貫して減少傾向にあり、令和2（2020）年の国勢調査結果では29,072人となっています。また、国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研という）の将来推計によると、平成27（2015）年を基準年とした本市の令和22（2040）年の将来推計人口は19,796人と予測されています。

本計画では、「高梁市新総合計画 2021-2030」や「高梁市人口ビジョン」のもと、引き続き定住促進施策を重点的に進めていくことを踏まえ、令和22（2040）年の目標人口を22,229人と設定します。

また、人口動向や産業動向からみて、新たな土地需要は小さいと予測されることから、用途区域の指定は現状を維持し、残存している未利用地の有効活用を図ります。

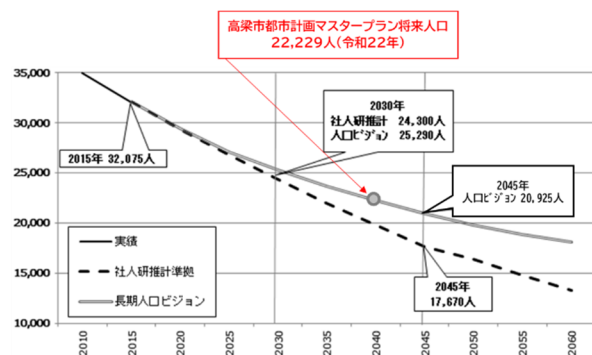


## 高梁市人口ビジョンにおける人口目標

市の最上位の都市像として、「健幸都市 たかはし」を掲げています。また、高梁中心部は、「文化が息づく、潤いのあるまち」を目標としています。

高梁都市計画区域は、広域な観点から、県中西部の中心としての役割を担う区域として位置づけています。

今後は、人口減少を抑制しながら、2030年に25,290人（社人研推計準拠より990人増）、2040年に22,229人（社人研準拠より2,433人増）を維持することを目指しています。



資料：高梁市総合計画

## 3 将来都市構造

### 3-1 市全体の将来都市構造

#### (1) 基本的な考え方

中心市街地を核としながら、地域拠点とその周辺集落を公共交通ネットワークで結び、それぞれが備える機能を相互に利用し合うことで、市全域において日常生活に必要な機能を維持していきます。

また、多様な暮らしを尊重しながら、時間をかけて緩やかに住宅や都市機能を誘導・集約し、誰もが暮らしやすい「多極連携型・集約まちづくり」を推進します。

#### ～拠点の連携【公共交通ネットワークの構築】～

本市では、県下でも特に人口減少や少子高齢化が著しい現状への対策として、各地域の個性を活かした集約化を図りつつ、これらの地域拠点を繋ぎ連携する“多極連携型・集約まちづくり、歴史都市『備中高梁』”を将来都市構造の目標とし、長期的なまちづくりに取り組んでいきます。

#### ～「小さな拠点」づくりによる生活利便性の確保【都市機能の集積】～

歴史的・地形的な背景から、集約型の市街地が形成されている高梁地区と成羽地区において、集積している都市機能の充実と強化を図るとともに、旧町の地域拠点においては、生活に必要な機能を集積し、地域特性を活かした「小さな拠点」づくりに取り組みます。これらの地域拠点を核に地域内外の相互連携を図り、日常生活の利便性を確保し、各地域拠点と高梁・成羽地区のネットワークを強化することで、市域全体の中核的役割と地域の暮らしを支えます。

#### (2) 各種地域の形成

##### ①都市機能集積地域

都市計画区域（高梁地区）において、JR備中高梁駅周辺を核に形成される中心市街地に、行政・教育・医療・文化などの拠点施設が立地し、交通・商業・情報などの都市機能が集積しています。中心市街地の活性化を促進しつつ、地域内外の交流の核となる地域として、その役割を強化し、市全域の中核的役割を担い、地域の暮らしを支えます。

##### ②生活機能集積地域

都市計画区域（成羽地区）において、成羽地域局等を核に、市西部の教育・福祉・文化活動を支える都市機能が集積しています。中心市街地の都市機能集積地域と連携・相互補完を図りつつ、その役割を強化し、市西部の中核的役割を担い、地域の暮らしを支えます。

※都市機能集積地域は、岡山県が定める高梁都市計画区域の整備、開発及び保全の方針という地域都市拠点のこと。生活機能集積地域は、生活都市拠点のこと。

### ③自然と生活が共生する地域

良好な自然に恵まれた地域で、地域拠点となる旧町の中心部を核としたまとまりのあるエリアによって農山村生活圏を形成する地域です。豊かな自然環境との共生を図りつつ、農山村生活圏における日常生活を支える拠点の強化を図ることで、地域の暮らしを支えます。

## (3) 地域拠点の形成

集落が散在する地域において、地域住民の日常的暮らしに必要な買物や行政サービスの機能を集め、周辺の集落とのネットワークを確保した地域拠点の形成を進めます。

## (4) 連携軸の形成

### ①市内連携軸

集積した都市機能によるサービスなどを利用するため、移動手段を確保し、市域全体における生活基盤の維持・向上を図ります。

### ②市外生活圏域連携軸

市内連携に加え、日常的に人の流入・流出が活発である周辺自治体との間で、生活圏としての連携をより強化するまちづくりを進めます。

# 将来都市構造図(市域全体)

## 凡例

	都市機能集積地域
	生活機能集積地域
	自然と生活が共生する地域
	地域拠点
	市内連携軸
	市外生活圏域連携軸



第1章 概要

第2章 現状と課題

第3章 将来都市像

第4章 分野別方針

第5章 地域別方針

第6章 実現化方策





## 3-2 都市計画区域の将来都市構造

### (1) 基本的な考え方

市全域の中核を担う都市計画区域では、中心部と地域拠点等を公共交通ネットワークで結びともに、多様な暮らしを尊重しながら、利便性の高い都市拠点や生活拠点に時間をかけてゆるやかに誘導・集約していき、行政と住民や民間事業者が一体となった「多極連携型・集約まちづくり」を推進します。具体的には、「まちづくりの基本理念・目標」に基づき、以下に挙げる高梁ならではの特徴的な「エリア」・「機能集積地域」・「拠点」・「連携軸」の形成を進め、個性的で魅力的な将来都市構造の実現を図ります。

### (2) 各種エリアの形成

#### ①市街地エリア

用途地域の指定エリアで、用途に応じた適切な土地利用の規制・誘導等を図り、秩序ある市街地の形成を推進します。

#### ②集落エリア

農用地を含め農山村集落が存在するエリアで、自然に囲まれた良好な農山村集落環境の保全・維持を推進します。

#### ③山林エリア

市街地等に隣接する豊かな自然環境が残るエリアで、山林を主体とした良好な自然環境の保全・維持を推進します。

### (3) 各種機能集積地域・拠点の形成

#### ①都市機能集積地域

市街地エリアにおいて、JR備中高梁駅周辺を核に都市機能が集積する地域であり、本市の中心市街地として、さらに、県中西部の中心都市として、都市機能の充実・強化を図ります。

#### ②生活機能集積地域

都市計画区域（成羽地区）において、陣屋町の面影を残しつつ、市西部の生活を支える医療・福祉・商業・教育等の都市機能が集積している地域であり、都市機能集積地域と連携・相互補完を図りつつ、市西部の中核的役割を担う地域として、都市機能の維持・充実を図ります。

#### ③歴史まちづくり拠点

市街地エリアにおいて、武家屋敷や町家、寺院等が残され、城下町の風情を色濃く残している区域であり、歴史的な町並みの保全と活用の促進を図ります。

#### ④産業拠点

- ・落合市街地においては、商工業が集積する拠点として、既存機能の維持・強化を推進します。
- ・成羽地区においては、工業が集積する拠点として、既存機能の維持・強化を推進します。

#### ⑤レクリエーション拠点

- ・高梁運動公園及びびなりわ運動公園は、広域的なスポーツ・レクリエーション拠点として、既存機能の充実と活用の促進を図ります。
- ・備中松山城は、観光レクリエーションの拠点として、歴史的景観の保全と活用の促進を図ります。

### (4) 連携軸の形成

#### ①国土連携軸

本市の東部を南北に貫く岡山自動車道、中国自動車道及び米子自動車道を国土連携軸と位置づけ、本区域と周辺県とを結ぶ連絡道とします。

#### ②広域連携軸

本区域と新見方面や岡山・倉敷方面を結ぶ国道 180 号と J R 伯備線を広域連携軸と位置づけ、都市間の連携強化を図ることで、周辺都市との人・もの・情報の流れを活性化させます。

#### ③地域連携軸








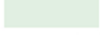



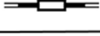


本地域の各機能集積地域や各拠点・隣接市町を結ぶ国道 313 号、本市と岡山自動車道賀陽 I C を結ぶ国道 484 号などの幹線道路を軸に、本区域や隣接市町との連携強化を図ることで、相互交流による地域活性化を促進します。

#### ④水と緑の骨格軸

本区域を流れる高梁川、成羽川を水と緑の骨格軸として位置づけ、水と緑にふれあう場の充実を推進します。

# 将来都市構造図(都市計画区域)

## 凡 例

	国土連携軸		産業拠点
	広域連携軸		レクリエーション拠点
	地域連携軸		市街地エリア
	水と緑の骨格軸		集落エリア
	都市機能集積地域		山林エリア
	生活機能集積地域		鉄道
	歴史まちづくり拠点		都市計画区域





第1章 概要

第2章 現状と課題

第3章 将来都市像

第4章 分野別方針

第5章 地域別方針

第6章 実現化方策

